
すずむし

SUZUMUSHI

Vol. 4 No. 9

1954年 9月



倉敷昆虫同好会

目 次

西大寺近隣の蝶 2	赤枝一弘・岡崎 昭	i
おとしぶみ		
香川・本地でミドリシジミを採集	宮武 稔夫	2
西大寺にシルビアシジミ産す	赤枝 一弘	2
弥高山のモンキアゲハ	小野 洋	2
ヒオドシヤヨウの蛹の体長の変異	広瀬 義躬	3
岡山県西南方面の好採集地	近藤 光弘	4
編集後記		4

西大寺近隣の蝶 2

赤枝 一弘
岡崎 昭

-----内は現在高崎市内の
龜王山・門前山・竹田山・大蔵山等を
西部丘陵と呼ぶことにする



前回赤枝はVol.4, No.3 に西大寺近隣の蝶として44種を発表したがさらに上記の様に採集地も拡大しさらに多くの新事実と若干の追加種を数えることが出来たので 2 岡崎昭君と共同発表いたします。前回電の口を岡崎市旧財田村と書きましたが同地は高倉村でしたのでおわびいたします。

追加事項及本年度採集の情況

1. ジヤノメ アケハ 本年は現在(8月下旬)までに一頭も採集、目玉出来なかった。

5. カラスアケハ "

8. スジタロシロチヨウ 丘陵地帯には普通、大蔵山、龜の口に8月ごろ特に多いようだが、しかし平地に於ては殆ど本年一頭採集のみ

11. ツマクロキチヨウ 現在まで未採集

14. ジヤノメチヨウ 本年は発生時期も遅かったし、個体数もすくないようだ。すなわち昨年は初見、24日だったが、本年は7、6日でありしかも昨年より見られた蛸干山に於ても与らば程度で金山では一頭も見えない。

18. コジヤノメ 西部丘陵、龜の口に於ても普通

26. ホシミスジ 市内各地の平地、蛸干山等で見られるが一番多いのは金山

29. テンク4ヨウ 非常に稀らしい

38. ホソバセセリ 西部丘陵にも産す。龜の口には確認していないが産することは確実

42. コチヤバネセセリ 丘陵地帯に普通時に5月ごろ龜の口に産す。

43. キマタラセセリ 龜の園にも産するが非常にすくないようだ。

追加種

45. *Dapilio macilentus* JANSON オナガアケハ

岡崎は1953、西部丘陵(門前山)に於て一頭採集

46. *Argynnis cydippe* LINNÉ ウラギンヒヨウモン

岡崎は1953、8に脱換個体を一頭採集

47. *Argynnis nerippe* FELDER et FELDER オオウラギンヒヨウモン

赤枝は1954、6、15 新橋堤防に於て一頭採集

48. *Limenitis camilla* LINNÉ 1764 イチモンジチヨウ

西部丘陵及龜の口に産するがすくない。

49. *Cacluga tytia nipponica* MOORE アサギマタラ

岡崎は1953、10月中旬に西部丘陵(門前山)に於て一頭

50. *Tongeia fischeri* EVERS-MANN クロツバメシジミ

赤枝は1953番自宅に飛来した一頭を採集さらに1954, 7, 29, 自宅へ飛来したのを採集、自宅附近に発生地が有るものをさがしたが自宅附近では見つからなかつた。しかしさらに自宅へ一頭飛来したし私の知らない間にもよく来ていることが考えられる。ので発生地は近くに有ることを確信する。私の見つけた発生地はやはり市内の住宅地で屋上のツメレンガを中心としてそのまわりで私は7月31日に数頭、8月2日に2頭の成虫と十数個の卵を採集した。そのほかでも成虫を見たが全部市内住宅地である。

51. *Curetis acuta paracuta* DE NICÉVILLE ウラギンシジミ

西部丘陵及葎の口に産するが少い。

ゼフィルス類は残念ながら調査出来なかつた。

ヒヨウモンではミドリヒヨウモンの幼虫らしいものを葎の口で採集したが、飼育中死んでしまったので確認出来ない。

ヒオドシチヨウは西大寺附近に終て全々見られない。もし産するとしても稀種であらう。今後ゼフィルスの一部、ヒヨウモンの一部をのぞいてはもうあまり増加出来ないと思う。

最後にクロツバメシジミを同定くださった小野洋氏に感謝いたします。

理	生物・地学標本模型	テ ー ス コ ー ター
化	昆虫採集用具	
学	テレビ・ラジオ・真空管	
器	島津製作所岡山県代理店	
械	力カ工商会	
倉敷市栄町(赤木病院西) 電 913番		



香川平地でミドリシジミを採集

本種 *Naopezephyrus taxila japonicus* Murray は、四国においては四国山脈を中心とする山地にのみ局所的に産すること知られているが、香川県においては、珍らしい種類に属し、平地での記録は殆んどないと想われるが、筆者は本年7月7日、善通寺市南方の大麻山麓農事試験場附近のハンノキ林で採集中、本種の早を発見採集したので記録しておく。

尚採集した個体はやゝ汚損しており、翅斑紋は青藍色即ち、林慶二郎氏の本種斑

紋色彩の分類によれば(日本蝶類解説)B型であった事を附記しておく。(宮武橋夫)

西大寺にシルビアシジミ

産す *Fizinaotis* FABRICIUS

1954. 9. 11日、朝干山(約50m)に登った時にヤマトシジミにしては変なので採つて見ると本種だったのであたりをさぐりさらに3羽を捉えた。さらに附近のミヤコ草から一卵が見つかった。いづれまたくわしく報告する (赤枝一弘)

弥高山のモンキアゲハ

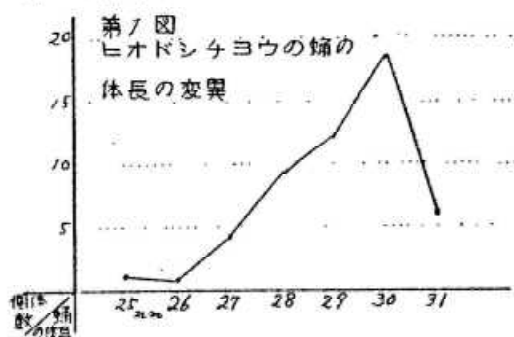
1954年8月8日、近藤氏と弥高山(川上郡川上町高山)へ登ったが、この頂上にアゲハチヨウ類が非常に多く飛来する事を知った。頂上は樹木なく直径20mから

すぼほ、円形をした平な芝原となっている。当日は後翅裏面がかなり橙赤色化したキアケハが常に5、6頭飛翔していたが、そこへモンキアケハがしばしば登つて来ては一周して降りて行く、といった状態で様々の腰を落着けさせなかつた程である。飛翔中をどらなければならぬので技術的に多少困難であるが、少し時間をとって、こゝでがんばれば、本種以外にも相当の収穫があると思われる。30分程の短時間であったが本種に混つてカラスアケハ、クロアケハ、アケハ、ウラギンズジヒヨウモンなどが天絶早に飛来するのが見られた。地頭、高山間でも谷間をゆるやかに飛翔する本種を見ること出来た。なお、乾足な次ら、高山附近で高山氏の取逃したアケハの夏型舎は後翅裏面の著く橙赤色化した個体であった。

外は地上2m位の幹に只1頭が蛹化していたに過ぎない。蛹の数に比して前蛹、幼虫(蛹化場所を求めて違い廻っていたもの)の非常に少いところから、既に蛹化期の終りと思われた。後4日を経て5月30日にも再び同地に赴き、更に精査した結果、蛹27頭を得て、結局前回とも合せて、筆者の不注意でつぶしたものの左除き蛹50頭を得ること出来、自電で羽化させるべく、その全部を持ち帰った。その際本種と本種の蛹の体長を計つてみたらと思いついたので早速物差しで計測して記録しておいた。つまりないことかも知れないけれども、野外で自然に育つたものなので、室内飼育のものよりは正しい結果がみられたのではないかと思ふことに記して大方の御参考に供したいと思ふ。その測定結果は上の通りである。

注)単位はmmとしmm未満は四捨五入した。

参考にこの結果を折線グラフに書いて見ると第1図の様である。



グラフからわかる通り結果はやや意外で、右に偏した、即ち7つの段階の内、前半には少数で、中央部は最盛とならず、後半部に山がある。という結果を得た。即ち

志 賀 製 品
昆 虫 ・ 植 物 採 集 用 具
理 化 学 器 械

岡山市西中山下 (柳川又又点東)

長 瀬 教 育 堂

電話 4725番

ヒオドシチヨウの 蛹の体長の変異

筆者は昨年(1953)の5月26日、倉敷市酒津の路傍の工ノキから本種蛹約30頭と幼虫7頭、及び前蛹1・2頭を採集した。これらの蛹又は前蛹は大部分のものが地上50cm~1mの範囲で工ノキの幹や附近の竹や草等に附着しており、それ以

正規分布ではないわけである。しかしこの
 ような結果は調査個体も少く、又測定器具
 も精密さを欠いたことから生じたものかも
 知れず、これだけの結果では決定的な結論
 は下せないと思う。従つて標準偏差等も求
 めないこととし、只直前平均の結果のみを
 記しておく。平均は29.08mm。

なを本誌の蛹の体長について記してある
 文献を私の知るものから拾い上げて参考
 迄に記してみると、杉俊郎(採集と飼育
 Vol. 9 No. 12, 1947)が28 ~
 30mm、小野洋・青野孝昭(倉工文化
 Vol. 2 No. 1 1949)が28mm前後
 等である。(広瀬 義躬)

岡山県西南方面 の好採集地

1954. 8. 8 岡山県西南部高山標高
 (653.7m)に採集を試みたので、その
 山相を述べ、採集コースを紹介しておき
 ます。

当地方は岡山県川上郡川上町に位置する。
 同行者は本会員小野洋氏であり、当日のコ
 ースは倉敷→高梁→成羽→地頭と下から頂
 に向つて真夏の太陽を受けて採集しつゝ蓋
 ったからみ、相当疲れていました。しかし、
 この逆を取り高山バスに乗り、下山しなが
 ら採集されるのが良いと思います。

その間、植物相(特に潤葉樹)に於ては
 申し分なく、好期に行きさえすれば、その
 収穫は、大いに期待されると思う。

次に時間割を表示しておきます。

成羽駅発

7.00—地頭行 14.00—高山行

9.10—正寺 14.35—正寺

8.00—芳井 17.00—高山

9.50—高山 18.15—正寺

12.25—地頭 19.05—地頭

帰りは、高山(終)330分で、連絡があり
 ます。(近藤 光宏)

あいつぐ台風の来騒で、自然
 編 集 にはわかに秋めいて来ました。
 後 記 燦下る雲を走らせているヒバ
 サバサと窓をたたくスサンの
 音が聞えたり、本の上にケラが巣つて来て
 覗きようをかりまいたりします。

今月は赤松一弘、岡崎昭両氏が「西大寺
 近隣の蝶2」をお寄せ下さいました。最近
 は新しく入会された方が大いに筆をふるわ
 れています。

近頃本誌の行き方について各方面で取沙
 汰されているようですが、現状では更に思
 いきつた増頁を望む事はなかなか困難で、
 隔月、或は季刊にのみする以外はいたし方
 なく、それは考えたばかりで山さなしいこと
 だと思ひます。そうしたところで今の2倍
 或は3倍の頁数に止るだけですから、全発
 定当時から云われて来た「皆さんが気軽に
 投稿出来て毎月皆さんが楽しみめる?誌」と
 云う行き方を続けたいと思ひます。今の頁
 数でも、あまりな長文はのりませぬ、かつめ
 れば留当收容をさますし、この趣旨に充分
 とい得るかと思ひます。どうかこの事を充
 分おくみじりの上、楽しみめるものをどしど
 し御投稿下さい。又この事につきまして皆
 さまの御考えを色々とおうかがいしたいと
 思ひますので編集部まで御意慮なく御意見
 をお聞かせ下さい。

すずむし 第4巻 第9号 昭和29年 9月30日印刷
昭和29年 9月30日発行

編集兼 倉敷市住吉町 岡山大学農業生物研究所
発行 者 害虫学研究室 内

倉敷昆虫同好會